



世田谷トラストまちづくり活動助成事業
SETAGAYA TRUST COMMUNITY DESIGN FUND

2025年度 ^{まるまる}〇〇コラボ部門 審査講評

1.全体講評と各グループの講評

運営委員長 饗庭伸(東京都立大学教授)

今年からスタートしたこの部門ですが、思いもよらない3つのコラボレーションが提案され、助成事業として採択いたしました。

この「思いもよらない」ことは、提案書作成時だけでなく、活動を進める上でも大事なことで、それぞれが単独でやっていたらとても思い付かないような、新しい活動がそこから生み出されてくると、とても素晴らしいと考えます。一つの活動を、異なる活動原理を持った、複数の人たちで運営する、ということになり、話し合いの回数も倍、調整ごとにも倍・と、手間がすべて倍以上になるということですが、それ以上の効果が得られるものと思います。1年目の活動を、大いに期待したいと思います。

グループ	「NPO 法人 親子サポート 一本の樹」 & 「MASA YOGA」
テーマ	子育て世帯へ情報発信する SNS プラットフォーム
プロジェクト	子育て情報 SNS プラットフォーム
助成決定額	30.3万円
二つのコラボによって何が起こるのか、子育て世帯にどんな新しい面白いサービスができるかが少し見えにくかったです。SNS は手段にすぎないので、その中でいかに意味のあることを伝えていくか、そしてそもそもの意味のある活動を生み出していくかが大切であるので、広報部分だけでなく、それぞれのプログラム部分でのコラボもめざしていただきたいです。 これは、他のグループも同様ですが、対象とする地域の人たちに対して、いかに面白い意味あることを作り出すかという点は忘れずに磨いていただきたいと思います。	

グループ	「NPO 法人 COSFA」 & 「Pollinators」
テーマ	住んでいる人の自主的で小さく無理のない活動が「自分と街との接点」をつくりだす新たなまちづくりの仕掛け
プロジェクト	街の本箱と道具箱
助成決定額	43.8万円
場所をひらいて待っていると人が来る、いわゆる待ち受け型という世田谷らしいスタイルだと思います。 〇〇コラボ部門の前身のつながりラボ部門を検討する際にも考えていたことですが、その場に来れない人のほうが課題を抱えていることが多いです。集まったメンバーで取り組むことと矛盾するかもしれませんが、見えない人、困っていそうな人に、ややお節介的に声をかけても良い場合もあるのではないかと思います。そのための作戦があると良いと思います。	

グループ	「IBASHO」 & 「こどものためのウェルネスサークル」
テーマ	きっかけは桜の木-学区を越えて連携し合う、流域的観点のススメ
プロジェクト	流域系探求フェス
助成決定額	50.0万円
流域でモノを考えていくことは、思ってもみないつながりが生まれ、とても面白いと思います。世田谷のまちづくりは地区毎からテーマ型へと広がってきましたが、この活動は、地区の問題へもう一度落とし込んでみるというもので、テーマ型では解決できない問題解決が期待できます。開催するワークショップで集まってきた人の細かな問題や可能性を掘り起こし、流域でつなぎ合わせてみることを何度もやってみると、とても面白くなるのではないかと思います。「この流域で起こっていることは自分たちで解決していくんだ」という気概を少し意識していただくことが大事だと思います。一方で、流域だけのつながりを根拠に、さらにつながることができるのかは難しいところもあります。大半の都市の活動は、流域の中に完結しておらず、広域に散らばっていますので、流域という共通言語、共通単位で、どこまでそれを束ねなおすことができるかということです。	

2.〇〇コラボ部門公開審査会を終えて～当日の運営委員のコメントより～

- ・コラボとは何か？を改めて考える機会となりました。
- ・コラボの具体イメージが伝わったかどうか評価につながっているようにも思えます。これから試行錯誤する中で、良い形を探していただけたらと思います。
- ・コラボのありかたは様々であり、成果報告の際にはそれも含めて伝えられるようぜひ活動を進めてください。
- ・コラボにより思ってもみなかった化学反応を期待しています。
- ・今回の3つの提案は、同分野でのコラボ、同じ地域内でのコラボと言えます。これから新たなコラボが考えられていくかもしれません。今回のどの提案も期待しています。
- ・手探りで進めている部分は、助成金を活用し、さらに色々な団体との連携を期待しています。
- ・これまで続けてきたことが伝わるべきところに伝わるように期待しています。

以上

